

令和4年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学び、協力し合う生徒の育成</li> <li>規律を守り、責任を果たす生徒の育成</li> <li>健康で思いやりのある生徒の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像</li> <li>目指す児童像</li> <li>目指す教師像</li> </ul>	期待感をもって登校し充実感をもって下校する学校。将来に対する夢や希望を育てる学校。社会人としての能力・態度を身につけることができる学校。
--------	--	--	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> やりとり帳やきめ細やかな生徒指導を通して、生徒理解を深め、落ち着いた生活環境を整えることができた。 ICTの活用などによる教材の工夫や授業のチャイムスタートを通して、授業に前向きに取り組む生徒が多くなる。 <課題> 支援が必要な生徒に対して、外部機関との連携やエンカレッジルームの活用など、さらに支援を広げる。 学校公開や学校評議員会及びPTAとの連携を通して、さらに家庭や地域と協力しての学校経営を進める。
-------------------	--

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ノートに毎日取り組ませる。</li> <li>受験講座を開講する。</li> <li>一人一台端末の授業での活用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ノートの提出率90%以上とする。</li> <li>受験講座を12回行う。</li> <li>授業で100%の教員が一人一台端末を活用する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ノートは90%以上の生徒が提出し、学力向上を支えている。</li> <li>受験講座は9月から実施を開始している。</li> <li>授業で90%以上の教員が一人一台端末を活用した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ノートを多くの生徒が提出できているのは良い。</li> <li>教員のタブレットの活用を進め、さらにわかりやすい授業を実践してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ノートは提出だけでなく、学習内容の改善を図る。</li> <li>受験講座は参加生徒の英語・数学の学力を向上させる。</li> <li>100%の教員が活用するとともに、活用の仕方をさらに工夫する。</li> </ul>
	体力の向上	「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼休みに体育館を開放し、生徒が主体的に運動する機会を増やす。</li> <li>体育の授業で補強運動を実施し、体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強運動を毎回の授業で行う。</li> <li>体力テスト各種目の結果の数値がそれぞれ全国平均に対して90%を超えるようにする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強運動は毎回の授業で行い、体力の向上を図っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は校庭が全く使えない状況だが、運動する機会をなるべくつくるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強運動をさらに継続して活用する。</li> </ul>
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書を通じた探究的な学習の実施・充実</li> <li>新校舎における学校図書館の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おすすめ本のカードを作成し、発表する。</li> <li>調べ学習や新聞作成に図書を活用する。</li> <li>学校図書館の昼休みの活用をさらに啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間3時間以上を使って、全校生徒がタブレット等を活用して読書カードを作成し、発表を行う。</li> <li>生徒の学校図書館の利用率が70%を超えるようにする。</li> </ul>	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>2・3学年はカードを作成した。1学年は今後実施の予定である。</li> <li>1学期で新しい学校図書館の整備を進め、2学期より貸出しを開始した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>おすすめ本のカードをもとにさらに生徒の読書活動を活発にしてほしい。</li> <li>新しい学校図書館をこれからもますます活用してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書カードを発表する機会をつくり、読書への関心をさらに高める。</li> <li>各教科や総合等で積極的に学校図書館を活用する機会をつくる。昼休みでの利用を促すようにする。</li> </ul>
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	英語検定の受験を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語検定の受験者数を昨年度より増加させ、合格率を70%以上とする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回英語検定で受験者の76%が合格した。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語検定に挑戦する生徒の数がさらに増えるように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の検定で受験する生徒の数も増加させるように働きかける。</li> </ul>
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実</li> <li>エンカレッジルームの活用促進</li> <li>副読交流、交流及び共同活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週特別支援教育委員会を開き、情報の共有や今後の方針の検討を行う。</li> <li>エンカレッジルームを有効に活用する。</li> <li>エンカレッジルームの活用により、自宅にとどまる生徒数をゼロを目指す。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月までに個々の支援シート(フェイスシート)を作成し、全教員で共通理解を図る。</li> <li>9月よりステップアップによるエンカレッジルームの活用を始めた。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな個性の生徒がいるので、一人一人に応じた対応ができるとよい。</li> <li>エンカレッジルームの活用等で、自宅にとどまる生徒がゼロになるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援シートを活用して、個々に応じた対応や配慮をしていく。</li> <li>エンカレッジルームを積極的に活用し、登校できる生徒の数を増やす。</li> </ul>	
	子供たちの健全育成	子供たちの健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止総合対策に基づき、校内のいじめ防止を図る。</li> <li>ソーシャルスキル・ワークや児童相談所との連携を図る。</li> <li>生活指導連絡協議会を通して、他校と連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止総合対策に基づいた対応を行い、いじめの未解決をゼロにする。</li> <li>SSWや児童相談所と連携し、月に1回以上の情報交換を行い、連携した取り組みができていく。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの予防に向けた指導と早期解消により、未解決はゼロを続けている。</li> <li>SSWとは月1回の情報交換を行い、連携した取り組みができていく。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの未解決ゼロを今後も続けてほしい。</li> <li>SSW等の外部機関をさらに活用してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もいじめの予防と早期解決を続けていく。</li> <li>SSWや児童相談所との連携を通して、まだ解決できていない生徒の課題を解決していく。</li> </ul>
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、集計・回答しやすい形式を整え、結果を教育活動に活かしやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Formsを活用したアンケートを実施し、改善に向けた検討を年に2回以上行う。</li> </ul>	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを実施し、改善に向けた検討を行う機会をもつことができた。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域の意見を学校の改善に役立ててほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集計によって出た結果を今後の教育活動に活かしていく。</li> </ul>
	保護者・地域との連携	ホームページの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページから発信する情報を増やす。</li> <li>連絡メールの活用をさらに進め、保護者との連携を密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の出来事について情報を発信し、毎日更新する。</li> <li>家庭の加入率を100%にし、連絡メールを部活動でも活用する。</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の出来事や新校舎の紹介、給食についてなど、連日更新している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページは内容が充実し、校内での生徒の活動がわかりやすいものになっている。</li> <li>連絡メールを発信する回数が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も学校の情報を積極的に発信していく。</li> <li>連絡メールを部活動以外でも活用を図る。</li> </ul>
	小学校との連携	小中連携教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に2回の小中連携の日を活用し、教員や児童・生徒の連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生が本校を訪問する機会や本校教員が小学校で訪問授業をする機会をそれぞれ1回以上つくる。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に学区内の小学生に来てもらい、中学校への理解を深めてもらうことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校と中学校が連携を深めることで、地域・保護者の安心感も高まるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との間で共有した情報を今後の教育活動や生徒理解に生かしていく。</li> </ul>
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を設け、長時間労働の是正に取り組む。</li> <li>職員会議のペーパーレス化を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月定時退勤日を1日以上設定し、原則全員が定時での退勤とする。</li> <li>職員会議の資料を100%ペーパーレスとする。</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も長時間労働への是正に取り組む。</li> <li>9月の職員会議よりペーパーレス化を進め、100%を目指している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の働き方改革はさらに進めてほしい。</li> <li>職員会議のペーパーレス化で効率化が進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日を利用して長時間労働の是正を進めていく。</li> <li>職員会議を100%ペーパーレスとする。</li> </ul>	
	SDGsへの取組	ボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心にボランティア活動を活性化させ、SDGsについての意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休業中にSDGsのレポートに取り組む。生徒の100%の提出をめざす。</li> <li>ボランティア活動に全生徒の30%が参加する。</li> </ul>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsに関する課題をほぼ100%に近い生徒が取り組むことができた。</li> <li>10月に江戸川の土手清掃のボランティアを予定している。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの取組により生徒の意識が高まっているのがよい。</li> <li>今後も多くの生徒にボランティア活動に参加してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの取組を教科や専門委員会に広げ、さらに理解を深めていく。</li> <li>上履きや文房具の回収などボランティア活動を広げる。</li> </ul>
	教員研修の充実	学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	Teamsの活用やオンライン授業の方法に関する研修を実施する。	ICTを活用するための研修会を年に3回以上実施し、授業がわかりやすいという生徒を80%以上とする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTに関する研修会をこれまで2回実施し、技能の向上に努めている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修も多く実施しているようなので、その成果を生徒に還元してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTに関する研修をさらに実施し、教員の授業力の向上に努め、わかりやすい授業を実現する。</li> </ul>